

車椅子活用実態調査報告書

I はじめに

カンボジアには、例年 JICA の協力により、「海外に子ども用車椅子を送る会」から脳性麻痺(CP)向け車椅子が贈られるが、このプロジェクトはカンボジア国社会問題省の部局である DAC(Disability Action Council: 障害者支援局)の共同・協力によって実施されている。2015 年には 160 台の車椅子がカンボジアに贈られ、それらは 8 箇所のリハビリセンター (PRC)、と 10 の NGO 団体に配布された。

プロジェクトの主目的は、脳性麻痺(CP)の子どものリハビリを促進することである。社会問題省大臣 Von Soth 閣下臨席のもと車椅子贈呈式が行われたのは 2015 年 8 月 19 日のことであり、今がこの事業の評価をすべき時と考える。

プロジェクトの評価に当たっては、リハビリセンター(PRC)、NGO から 3 か所ずつ選びインタビューを行った。インタビューは DAC と JICA*¹、JICA-AC*²の代表者が直接 PRC と NGO を訪問して実施した。対象は車椅子使用者 (CP の子ども) 17 名、理学療法士 (PT) 16 名、センターのマネージャー 6 名である。

* 1 JICA : 日本国独立行政法人国際協力機構

* 2 JICA-AC : JICA 元研修生同窓会

JICA の招聘により日本で研修し、帰国後に自国の政府機関に勤務している人たちの組織である。日本との交流や親善、研修の成果を継続するための同窓会的な組織。JICA が各国で組織している。

II 目的

1. CP の子どもの CP 用車椅子使用における満足度を評価する
2. CP 用車椅子によるリハビリの効果を評価する
3. CP 車椅子使用の効果を見出す
4. 地域の環境の中で車椅子使用の問題点を見出す

III インタビューの内容

1. (それぞれの立場で) 贈られた車椅子に満足しているか
2. CP の子どもに車椅子はどのような支えとなっているか
3. CP 車椅子は CP の子を持つ親の負担をどのように軽減しているか
4. 車椅子を使うことで子どもは社会活動や地域での交流ができるようになったか

IV インタビューの対象者

下の表が 160 台の車椅子が贈られた PRC と NGO である。インタビューの対象となったのは、PRC Prey Veng, PRC Seim Reap, PRC Kampong Chhnang, NGO Pour Un Sourir des Enfants Organization, NGO Domnok Toek Organization, NGO Rabbit School Organization の 6 団体で、使用者 17 名は 160 台の使用者の中の 10.6%に当たる。

No.	PRC	No.	NGO
1	Phnom Penh (Kien Khleang)	1	Pour Un Sourir des Enfants Organization (PSE)
2	Prey Veng	2	Domnok Toek Organization
3	Kampong Cham	3	Rabbit School Organization
4	Seim Reap	4	Koma Pika Foundation Organization (KPF)
5	Sihanoukville	5	Epic Art Organization
6	Kampong Chhnang	6	New Humanity Organization (NH)
7	Cambodia School Prosthetic & Orthotic	7	LAVALLA School
8	Takeo	8	HHC
		9	CCAMH
		10	CAMYOD

V 結果

インタビューは、車椅子使用者、理学療法士、センターのマネージャーそれぞれに対して行ったので、結果分析も 3 つに分けてまとめた。

1. 使用者へのインタビューからわかったこと

17 人の内 12 人は車椅子使用の目的は座位の支えと筋肉や骨の改善と答え、他の 5 人は遠くへの移動と答えたが、だれもが期待していたのは移動手段としての車椅子で、それによって学校や健康センターに行ったり、外に出て日光浴をしたり、買い物や地域の人たちとの交流を望んでいた。

すべての家族が、車椅子のおかげで常に抱きかかえて移動する必要がなくなったと答えている。車椅子の評価は全員満点だった。総体的な評価は平均 71.5%。

どの使用者も譲渡前に PT から子どもの乗せ方、車椅子の調整法、掃除や手入れの仕方、ベルトの締め方などをアドバイスされていた。

12 人は以前国産の車椅子を使っており、比較すると、日本から来た車椅子はしっかりしていて、体に合っており快適で長持ちするので使い易いと答えている。国産の車椅子は地域の環境に合っているのだが、調整が効かず、楽ではないうえに壊れやすい。

数人はこれまで車椅子が壊れたことがなかったので、修理した経験がないが、10 人は修理しなければならず困っていると答えている。彼らは修理法を知らないし、地域に技術を持った人もいない、また部品も手に入らない。何人かは自分で何とか修理し、また何人か

は PRC に連絡を取ったり修理してもらおうと PRC に車椅子を持ち込んだりして、ほとんどは修理されている。

親たちはみな、車椅子は大きな助けとなって彼らの負担は軽減されたと答えている。だからこそ、彼らはこういう車椅子をさらに必要としている。

2. 理学療法士へのインタビューからわかったこと

理学療法士はみな、車椅子譲渡の前に使用者たちに車椅子の手入れ法、掃除のやり方、調整法や簡単な修理法を伝えたと言っている。

16 人の内 14 人は短い距離の移動や屋内用のものとして車椅子を渡したと言っている。(ほとんどが屋内用のタイプだった) 遠くへの移動用車椅子は 2 台だけだった。

15 人は贈られた車椅子は CP の子どもに合ったものだったと言っている。子どもには大きすぎて使えなかったのは 1 台だけだった。

14 人が車椅子を渡す時に調整を加えなければならなかったと言っている。その調整とは、フットレスト、ヘッドレスト、ベルト、座布団、サイズと高さなど。2 台は調整が全く必要なかった。

14 人の回答者は、車椅子が最新式で軽く、調整可能で折りたためることから持ち運びも楽だとしているが、2 台については、遠くへの持ち運びが難しく、また地域の環境(湿地)に合っていないとしている。

カンボジアの環境に対して車椅子の適合性についての質問には、5 人が、屋内での使用のため問題ないとしているが、11 人は、湿地で使うには車輪が小さすぎて適合していないと答えた。

16 人中 16 人(100%)が贈られた車椅子は使用者たちにとってなくてはならないもので、みな満足して使っていると明確に答えている。そして同じような車椅子がもっと必要だというのが彼らの答である。

3. センターマネージャーへのインタビューからわかったこと

インタビューを受けたセンターマネージャーは 6 人。彼らは 74 台の車椅子を受け取り、64 台を子どもたちに渡し、8 台は NGO で保管、2 台は PRC で保管している。車椅子を受け取った子どものほとんどは CP だが、他にも水頭症、対麻痺、重複障害などがある。

5 人のマネージャーは車椅子が CP の子どもの必要を満たしていると答えたが、1 人は否定的で、その理由はある車椅子が小さすぎて子どものサイズに合わないというものだった。

マネージャーはみな、車椅子には満足していて、CP の子どもを支援すると同時に子どもたちの親やいつも抱いている人たちの負担を軽減していると答えた。贈られた車椅子は国産のものとは比べて、品質がよく、子どもたちの日常生活を支援している。

VI それぞれのコメント

1. 利用者からのコメント

- ・車椅子は私たちをととても助けてくれていて、幸せだし、贈ってくれた人に感謝している
- ・子どもたちはすぐに大きくなるので、もっと大きい車椅子が必要だ
- ・車椅子が故障したときは PRC が直してくれるよう依頼したい
- ・この車椅子は調整がし易くて子供のサイズに合わせることができる
- ・この車椅子は小さくてもう壊れている、私の子どもには座れない
- ・車椅子を使うのは楽でいいことだが、故障したら直すのは難しい
- ・車椅子の手入れや使い方についてもっと明確な情報が欲しい
- ・障害のある子どもは増えているから、たくさんの車椅子寄贈があるといい
- ・NGO は壊れた時の修理を手伝ってほしい
- ・他の多くの障害児のために NGO はもっと車椅子を提供してほしい

2. 理学療法士からのコメント

- ・カンボジアの湿地で使えるように別のタイプ（大きなタイヤ）の車椅子を希望します
- ・車椅子修理用のスペアの部品や道具を希望します
- ・車椅子による支援を続けてください、もっと必要です
- ・車椅子の手入れや修理、調整法などもっとトレーニングを受けたいと思います
- ・子どもたちはどんどん大きくなる、もっと大きなサイズの車椅子を提供してください
- ・車椅子以外に、歩行器も希望します

3. センターのマネージャーからのコメント

- ・地域には他の障害者もいるのでタイプの違う車椅子も贈ってください
- ・PRC の車椅子の写真を提示すれば、子どもに合ったサイズの車椅子を選べるだろう
- ・車椅子譲渡の事業はぜひ続けてください、引き続き支援の必要な子がいます
- ・もっと歩行器（walking frame, standing frame）が必要です
- ・障害をもつ子どものために車椅子による支援を続けてください

以上